

# I 研究開発の経緯

## 1. 総合的学習「総合人間科」のあゆみ

齊藤真子

### (1) 新教科「総合人間科」前史

#### ①総合学習（昭和46年～平成元年）

- ア 総合学習としての研究旅行の試み(昭和54年～)
- イ 「ゆとり」の時間を利用した総合学習の試み(昭和56年～58年)
- ウ 総合学習についての理論的な研究(昭和59年～60年)
- エ 高3文系選択科目「生命について」の実践(昭和61年～平成7年)

#### ②学校改革の流れ（平成元年～平成6年）

- ア 学校改革本方針  
三つの視点
  - ・自由・自主と主体的な人間形成
  - ・そのための基礎学力の充実
  - ・なぜ学ぶのか・生き方をつかませる完成教育その方向  
自己教育力の能力を養う教育をめざすユニークな教育課程の開発と実践及び教育条件の整備に取り組む
- イ 「総合人間科」準備時期としての「国際理解と平和の教育」  
学年担任団による特設時間を設定した「テーマ学習」の取り組みの提言  
テーマは「性」「いじめ」「差別」「平和」「核」「環境」「生命」「職業選択」が候補になる。  
最終的に「環境」「人権」「平和」「国際理解」「生命」の五つになる。

### (2) 研究開発「総合人間科」(平成7年～9年)

#### ①文部省研究開発テーマ

- 自分の人生を自覚的に選択していく力を育てる教育課程の開発
- －「総合人間科」設置の試み－

#### ②「総合人間科」の評価

- ア 4つの評価主体
  - a 自己評価
  - b 相互評価

- c 教師評価
- d 第三者評価
- イ 4つの評価観点
  - a 知的関心の形成と問題解決能力
  - b 体験コミュニケーション能力
  - c 想像的表現能力
  - d 総合的思考力と実践能力
- ウ 「生き方」を評価することの難しさ

#### ③「総合人間科」の内容

- ア 学校テーマ「自分の人生の自覚的選択」と学年テーマの系統性
- 中1 「生き方を考えるⅠ」  
(出会いから学ぶ)
- 中2 「生命と環境Ⅰ」  
(生活の中から考える)
- 中3 「平和を学ぶⅠ」  
(国際社会に生きる)
- 高1 「生命と環境Ⅱ」  
(自然・共生・人間・社会)
- 高2 「平和を学ぶⅡ」  
(国際理解・人権・平和)
- 高3 「生き方を考えるⅡ」  
(人生選択と社会のあり方)

学びの方法  
学びの関連  
学びの意義

人生課題と現代の課題を重ねて考える

学びの主体は生徒自身  
出発点は自分の興味関心で、自分の生き方を問う。

- イ 学年プロジェクト体制(養護教諭も含む全教員)と指導教官制  
少人数教育 TT
- ウ 学びの体験として「フィールドワーク」を重視  
スクールボランティア(大学・地域)制度の活用
- エ 多様な表現活動(発表・プレゼンテーション)を支えるメディアネット

### (3)「総合人間科」の発展的展開(平成10年～)

総合的学習(総合人間科)での学習を教科へどのよ

## 1. 総合的学習「総合人間科」のあゆみ

うに還流させるのか、また教科がどのように変わるのか(総合学習と教科との関連)、つまり総合的学習での学びの成果を教科でまとめることである。一教科でのまとめも可能であるが、教科の枠を越えて自分の興味関心から出発する総合的学習では、複数教科(クロスカリキュラム)でのまとめにならざるをえない。

中等教育研究協議会(平成12年2月22日)

公開授業

中学「総合的学習の発展としての表現活動と討論学習」

- 中1 グループ発表と話し合い
- 中2 デイベート
- 中3 パネルディスカッション

高校「総合人間科の成果を教科においてどう生かすか(クロスカリキュラムの試み)」

- 高1 学年テーマ「生命と環境」(自然・共生・人間・社会)
  - 「保健・倫理」 心と体の諸問題を考えよう
  - 「生物・英語」 世界へ意見を発信しよう
  - 「国語・数学」 論理的に考え表現しよう
- 高2 学年テーマ「平和を学ぶ」(国際理解・人権・平和)
  - 「家庭・美術」 沖縄文化体験
  - 「古典・保健」 命どう宝 人権を考える
  - 「理科・数学」 沖縄の自然環境から学ぶサイエンス
  - 「日本史・英語」 資料からみる沖縄の歴史

シンポジウム

- 中学「移行期の総合学習の課題」
- 高校「総合学習のあり方をめぐって」

### (4) 研究開発「青年期のキャリア形成」(平成12年～14年)

#### ①文部科学省研究開発テーマ

- 高大の連携を生かした「青年期のキャリア形成」
  - 総合的学習の発展を軸とした併設型中高一貫カリキュラムの開発—
  - 【1-2-2-1制によるカリキュラム】
  - 教育学部の専門家や名古屋大学研究者との連携により次の授業に取り組む
- 中1～高3 総合的な学習
- 中1・中2・高1 ヒューマンプログラム
  - 心の教育「ソーシャルライフ」の授業
- 中2・中3 選択教科9教科による10講座展開
  - 異年齢による「選択プロジェクト」
- 中2・中3 基礎英語・基礎数学

- 中1・中2 個別学習アシスト教室
- 高1・高2 新教科群
  - 高1 「自然と科学」(前期)
  - 「心と身体の科学」(後期)
  - 高2 「国際コミュニケーション学」(前期)
  - 「平和と共生の科学」(後期)

#### ②中等教育研究協議会(平成14年2月21日)

研究協議会主題

「大学との連携」をいかして中・高の新教育課程を創る—キャリア形成を軸とした新教科と総合人間科の授業実践—

中等教育の基本的な目標として「青年期のキャリア形成」をおき①「自ら学ぶ力」の育成と②未来に向かっての豊かなセルフイメージ、職業観の獲得をめざす。①のためには総合的な学習である「総合人間科」(中1～高3まで)を充実、発展させると共に、中学2・3年生での選択プロジェクトと高校1年生の新教科群(「自然と科学」「心と身体の科学」)を新たに設ける。②のためには「心の教育」であるヒューマンプログラムを「ソーシャルライフ(対人関係構築スキル)」として中学1年生から実践する。

公開授業(12教室)

- 中学1年 「ソーシャルライフ」(心の教育として対人関係構築スキルを学ぶ)
- 中学2年・3年 「選択プロジェクト」(異年齢集団による選択教科の授業)
- 高校1年 新教科「心と身体の科学」(統合教科)
- 高校1年 総合人間科「生命と環境Ⅱ」(総合的な学習)
- 高校2年 総合人間科「平和を学ぶⅡ」(総合的な学習)

分科会(研究協議)

- A ソーシャルライフ(中学1年授業担当者より報告)
- B 選択プロジェクト(選択プロジェクト担当者より報告)
- C 新教科群(授業担当者より報告)
- D 総合的な学習の時間(総合人間科について高1・高2合同で実践報告)
- E キャリア教育(「生き方」のキャリア教育について高校3年生より発表)

講演

- 題目 「日本の教育改革—中高一貫教育を中心に—」
- 講師 文部科学審議官(前初等中等教育局長)
- 御手洗 康先生